

協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査促進と陽性者の受診率向上への取り組み

研究分担者：日高 勲 済生会山口総合病院 消化器内科
研究協力者：土井 克彦 全国健康保険協会山口支部

研究要旨：いまだに肝炎ウイルスに感染していることを知らない感染者や陽性と知りながら受診していない患者も存在する。職域における肝炎検査の一つとして、我が国最大の保険者である協会けんぽによる肝炎ウイルス検査があるが、その受検率は年1%前後であった。先行研究では、Nudge理論用いた「簡易リーフレット」使用により、受検数増加につながった。しかし、その後は年々減少し、2023年度の受検率は0.8%まで低下しており、受検促進にはリーフレットの改定だけでなく、周知方法の工夫など継続的な取り組みが必要である。一方、検査陽性者の医療機関受診率は、協会けんぽ山口支部ではもともと70%程度と良好であったが、保健指導員が肝炎医療コーディネーターを取得、独自に作成した陽性通知書（受診勧奨文書）による受診勧奨を開始したところ、未受診者の新たな受診を認め、2022年度以降はほとんどの陽性者の受診を確認できている。個別勧奨は職域においても肝炎ウイルス陽性を受診につなげる有効な手段である。

A. 研究目的

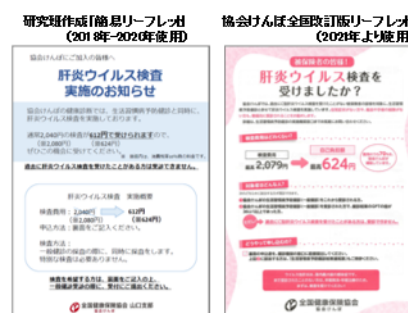
ウイルス肝炎は肝炎対策基本法前文に国民病と記載されており、適切な受検受診につながるよう、様々な施策が講じられてきたが、いまだに感染を知らない感染者や陽性と知りながら受診していない患者も存在する。

「肝炎対策の推進に関する基本的な指針」では、肝硬変又は肝がんへの移行者を減らすことを肝炎対策全体の目標に掲げており、そのためには、肝炎ウイルス検査の受検を促すこと（受検促進）、検査で陽性となった者が速やかに肝疾患専門医療機関を受診するよう促すこと（受診勧奨）、適切な診療を継続して受けれるよう支援すること（受療支援）が重要である。

職域における肝炎ウイルス検査の実施機会として、我が国最大の保険者である全国健康保険協会（協会けんぽ）における624円の自己負担（協会けんぽが1455円を負担）で受検できる肝炎ウイルス検査がある。その受検率は年1%前後であったが、Nudge理論用いた「簡易リーフレット」使用による

先行研究では、協会けんぽ山口支部においても、先行研究で介入初年度に受検率の増加を認めた。しかし、本研究班との取り組みの結果、協会けんぽ独自の全国版「簡易リーフレット」が作成され、山口支部でも2021年より使用されている。

協会けんぽにおける肝炎検査の簡易リーフレット（協会けんぽ山口支）



本研究では効果検証を継続するとともに、更なる受検促進につながる新たな取り組みについても検討する。

また、陽性者のその後の受診状況についても実態把握を行い、2021年度より未受診者へ受診勧奨を実施しており、受診率向上につながるか効果検証を継続する。

B. 研究方法

2018年度より協会けんぽ山口支部内において個人に郵送する健診案内に研究班作成の簡易リーフレット兼受検申込書を、2021年からは協会けんぽで改定された全国版簡易リーフレットを同封しており、受検数（率）、陽性者数（率）、レセプトデータベースによる陽性者の医療機関受診の有無を解析した。

また、2021年1月より肝炎医療コーディネーターを取得した保健指導員が分担研究者と独自に作成した陽性通知書（受診勧奨文書）および山口県作成の職域検査における初回精密検査費用助成案内リーフレット、肝疾患専門医療機関一覧表の送付による受診勧奨を開始しており、その後の新規受診の有無を解析した。

C. 研究結果

受検数、受検率の推移と陽性者数

2017年度以降の協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査受検数（率）の推移は下図のとおりである。

協会けんぽ山口支部における肝炎検査実施状況

年度	健診数	肝炎検査数	受検率	HBs陽性	HCV陽性
2017年度	95767	1087	1.1%		
2018年度	100027	3419	3.4%	12 (0.35%)	16 (0.47%)
2019年度	104358	2496	2.4%	8 (0.32%)	7 (0.28%)
2020年度	105921	2165	2.0%	8 (0.37%)	9 (0.42%)
2021年度	111851	1525	1.4%	9 (0.59%)	7 (0.46%)
2022年度	114316	1031	0.9%	5 (0.48%)	6 (0.58%)
2023年度	120962	1001	0.8%	4 (0.40%)	2 (0.20%)

※山口支部以外の加入者を含む

簡易リーフレット同封前の2017年の検査数は1087件（検査率1.1%）に対し、簡易リーフレット送付開始した2018年は3419件（3.4%）と増加したが、その後減少傾向で、全国改訂版に変更した2021年は1525件（1.4%）、2022年は1031件（0.9%）、2023年度は1001件（0.8%）と、介入開始前と同程度まで検査数は減少している。

尚、検査における陽性者（支部内のみ）

は2018年度23名（HBV10名、HCV13名）、2019年度11名（HBV4名、HCV7名）、2020年度13名（HBV6名、HCV7名）、2021年度15名（HBV9名、HCV6名）、2022年度9名（HBV4名、HCV5名）、2023年度（HBV4名、HCV2名）であり、依然として陽性者を認めており、陽性率も変化していない状況である。

研究協力者が健診機関を訪問し、実地調査を行った結果、複数の施設でリーフレット配布が十分に行われていないことが判明した。そこで、2024年度の健診実施機関向け説明会の中で研究協力者（土井）より、肝炎検査について再度案内を実施した。さらにさらに、協会けんぽ山口支部メールマガジンへの受検促進記事の掲載による広報を実施した。

陽性者の受診状況と受診勧奨の効果

未受診者に対し、2021年1月より陽性通知書（受診勧奨文書）および山口県作成の職域検査における初回精密検査費用助成案内リーフレット、肝疾患専門医療機関一覧表の送付による受診勧奨を開始したところ、

肝炎検査陽性未受診者への受診勧奨資料



送付物：陽性通知文書と専門医療機関リスト、初回精密検査案内、専門医療機関一覧

2023年8月時点で、2018年度、2019年度の未受診者11名（2021年1月に受診勧奨実施）中5名が、2020年度の未受診者7名（2021年9月に受診勧奨実施）中2名が、2021年度の未受診者4名（2022年6月に受診勧奨実施）中1名の新たな医療機関を受診が確認された。なお、2022年度における未受診者に2023年に受診勧奨予定であったが、未受診者は2名で、いずれも外国籍で、住所

が定かでなく、受診勧奨を実施できなかった（下図）。

受診勧奨の実施時期と実施後の新規受診の状況

受検期間	勧奨文送付日	送付件数(未受診者)		新規受診数	
		HBV	HCV	HBV	HCV
2018年4月～2020年3月	2021年1月21日	11件	8	4	1
			3		1
2020年4月～2021年3月	2021年9月13日	7件	4	1	1
			3		1
2021年4月～2022年3月	2022年6月27日	4件	3	1	0
			1		0
2022年4月～2023年3月	未実施	2件	1	-	-
			1		-

受診勧奨の結果、2024年8月時点における陽性者の受診率は2018年度91.3%、2019年度100%、2020年度84.6%、2021年度60%、2022年度77.8%、2023年度80.0%となった（下図）。

肝炎検査陽性者の受診確認状況 2024年8月時点

年度	陽性者数	受診確認数	勧奨後 新規受診	受診率	
2018年	HBV	10	9	90%	
	HCV	13	12	92.3%	
2019年	HBV	4	4	100%	
	HCV	7	7	100%	
2020年	HBV	6	5	83.3%	
	HCV	7	6	85.7%	
2021年	HBV	9	6	66.7%	
	HCV	6	3	50%	
2022年	HBV	4	3	75%	本支部1名は外国人
	HCV	5	4	80%	本支部1名は外国人
2023年	HBV	4	4	100%	
	HCV	1	0	0%	

※山口支所の受診者は除いて確認、勧奨

D. 考察

従来の検査申込書では、協会けんぽ山口支部における肝炎ウイルス検査の受検数は年間約1000件（受検率1%程度）であったが、研究班作成の簡易リーフレット配布に変更後、一時的に受検数は2-3倍に増加し、リーフレットの有効性が示唆された。しかし、介入初年度以降、検査数は経年的に減少傾向で、2021年に協会けんぽ全国改訂版に変更後、さらに検査数は減少し、2023年度は0.8%と研究介入前と同等となっている。

研究協力者が、実地調査を行ったところ、簡易リーフレットが個別の健診案内に封入されていない健診機関を複数認めた。研究介入初年度には健診実施機関向け説明会の

中での検査案内の徹底を分担研究者より依頼したが、その後は実施できておらず、2024年度の説明会で、研究協力者より、改めて肝炎検査に関する案内し、さらに、協会けんぽ山口支部メールマガジン広報を実施した。次年度以降も引き続き広報活動を継続し、検査数の再増加につながるか、検証する。

協会けんぽは保険者であり、医療機関受診者のレセプトが確認でき、レセプトデータより受診状況の推測が可能である。研究協力者による調査の結果、検査陽性者70%以上が、検査後比較的早期に医療機関を受診していることが判明した。

さらなる受診率向上に向け、2021年より保健指導員から未受診者へ、独自に作成した陽性通知書（受診勧奨文書）送付による受診勧奨を開始した。その結果、勧奨後の新規受診が8名確認され、2024年8月時点において、陽性者の受診確認率は約82.9%と上昇し、職域検診における個別受診勧奨の有効性が示された。尚、2022年度未受診者の2名は外国籍で移住が多く、現住所が特定できず、受診勧奨が実施できなかった。

協会けんぽ山口支部では本政策研究の協議を契機に、支部所属の健康指導員全員が肝炎医療コーディネーター（山口県肝疾患コーディネーター）の認定を取得しており、肝炎検査や陽性者への受診勧奨の必要性の理解が深まり、介入に積極的であることも受診勧奨の効果上昇に役立っていると推測する。

E. 結論

Nudge理論を活用した簡易リーフレットによる受検啓発は肝炎検査促進に簡便かつ有用な取り組みであるが、検査促進維持には、健診機関への継続的なアプローチが必要である。

職域における肝炎検査陽性者の多くが、その後比較的早期に医療機関を受診していた。

職域においても、受診勧奨文郵送による個別勧奨は医療機関未受診者の新規受診につながる有効な手法である。

F. 政策提言および実務活動

<政策提言>

協会けんぽなどの健診に関わる職場の保健指導員が肝炎医療コーディネーターを取得することは、肝炎検査陽性者の積極的な受診勧奨へつながる。

<研究活動に関連した実務活動>

研究班の活動を契機に、協会けんぽ山口支部の顧問に就任し、保健指導員と定期的な協議を継続している。

G. 研究発表

1. 発表論文

なし

2. 学会発表

なし

3. その他

啓発資材

なし

啓発活動

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし